

生駒市食育推進会議 第2回会議録（要旨）

1. 日時 平成19年10月22日（月）午後1時30分～午後4時

2. 場所 生駒市役所4階 大会議室

3. 議事内容

- （1）会議委員の交代について
- （2）アンケート集計結果について
- （3）第1回ワークショップについて
- （4）計画に反映すべき課題等について

議事内容

(1) 会議委員の交代について

- ・生駒商工会議所議員の異動に伴い、上田委員から中井委員への交代

(4) 計画に反映すべき課題等について

■食育アンケート調査結果（中間報告）について

<アンケート全般について>

- ・子どもの間食のとりすぎなど、親が子育てをする時に気になる点が結果として出ていると思う。
- ・前回の会議で指摘されていた問題点が結果の中に出ていると思う。生駒市の家庭の事情も浮き彫りになっているので、それをふまえて何が出来るのかを考えるべきだと思う。
- ・食育への関心、朝食の欠食、メタボリックシンドローム等の、国であげている数値目標について、現在生駒市ではどのような状況なのか、この結果から確認することができるのか。
- ・結果の分析においては、問題を見つけるだけでなく、なぜそれが起こっているのか、防ぐためにはどうしたらいいのかということを会議の中で提案していきたい。
- ・“郷土料理”とあるが、市民が郷土料理そのものを理解しているか疑問である。

<就学前児童の項目について>

- ・乳幼児が朝食を食べない理由で「食欲がない」が多かったのが残念である。親の夜型の生活習慣が原因だと考え、生活リズムを整えるよう保護者に教えるようにしている保育園もあるが、乳幼児の食生活は後々に響くので、その役割は大きいと思う。

<小学生の項目について>

- ・小学生が食事を楽しいと感じる時に、「外食」「自分がつくった時」「屋外での食事」があがっているのをみると、学校やキャンプでの調理体験が大事だと思う。
- ・「自分でつくった時」に、食事の時間を楽しいと感じる小学生がいるという結果は喜ばしい。食育をやっていく甲斐があると思う。

<成人の項目について>

- ・食育は人間教育であり、子どもだけでなく親にもするべきだと思うが、アンケートはそれをふまえて設計しているのか。
- ・20～30代女性で間食の量が多いと思うが、これが子どもに大きな影響を与えると思われる。このようなことがアンケートの中で聞かれているのか。

⇒ 事務局の回答

- ・今回は中間報告ということで、単純集計の結果のみを報告したが、次回は年齢別などのクロス集計をしてより詳しい結果を報告する予定をしている。
- ・今後は、資料を事前送付して委員に見て頂いてから、会議を開催させて頂く。

■ワークショップ報告について

- ・「家庭科専科の先生がいない」とあるが、確かに家庭科は担任が教えている学校もある。自炊経験のない男性教師の場合は、裁縫から調理実習まで教えるのは難しい状況にある。ある小学校では、家庭科の授業をスクールボランティアや保護者・地域の人々、栄養教諭・給食センターの栄養士にサポートしてもらい充実させている。子どもたちが調理体験を楽しんでいると感じているといったアンケート結果もあるので、どこの学校にも家庭科専科の先生がいればよいと思う。
- ・「親の関心が2極化」とあるが、同じことが第1回の会議で出ていた。親が無関心な場合、親には言いにくいので「子どもに教えて親に伝えれば」とあるが、関心はあっても仕事や家庭の都合で実行に移せない親に対しても、子どもに教えるのがよいと思う。簡単に出来る方法をアピールすることが必要だと思う。
- ・生駒らしさという点で上がっている内容に不満である。生駒市の文化や歴史について研究した上でのぞむべきではないか。この会議においても、委員の中で食育に関する知識を共有しておくべきではないか。

⇒ 事務局の回答

- ・ワークショップのメンバーは、専門家ではなく、健康づくりに関わっている方や公募委員に応募された方、一般の方など、食育に相当の関心を持っている方で構成している。メンバーの選定が行政主体になったのは仕方がなかったと思っている。
- ・今回は第1回ということで課題抽出の段階で、育児に関わっている方を含む市民から意見を出していただいているが、「生駒らしさ」に対する一般市民の認識は現在はこのようなものではないかと受け止めている。

■課題としてあげべきことについて

<食育に関する情報発信について>

- ・管理栄養士として子どもの栄養相談、特に肥満児の相談にのっている。肥満の原因としては、体質や運動量もあるが、母親が調理にかかる時間が短く、ボリュームのあるおかずが1～2品になってしまうという共通点がある。栄養相談にくるぐらい食育に関心があっても、様々な事情があって実践できない母親もいるので、最近では調理済みの食品の利用方法もアドバイスしている。ワークショップの中で、お店から情報発信できないかというのがあったが、副菜の調理済み食品も選んでもらえるような情報発信を工夫してもらえればよいと思う。子どもの肥満だけでなく、単身者や高齢者も調理済み食品の

利用度が高いと思われるので、バランスよく選べるような情報発信を考えてほしい。

- ・あるスーパーマーケットでは、食事バランスガイドを配布しているほか、食育をふまえた食べ方・作り方の情報発信やカロリー計算を実施している。しかし、単品のカロリー計算はできるが、ミックスされた料理になるとカロリー計算が難しくなり、なかなかよい結果を出せていない。
- ・七草粥の季節に説明を付けて売るなど、店からの情報発信も大事だと思う。
- ・給食ではオリンピックの時には世界各国の料理を出したり、地方の郷土料理を出すこともある。給食便りには、献立表、ランチメニュー、レシピ、孤食について等、毎月食育に関するテーマがのっている。子どもたちは献立表をよくみているので、スーパーや医院で給食便りを貼ってもらう等して親にももっとみて欲しい。

<伝統的な食文化について>

- ・食べ物については、栄養を取りすぎているのが問題なので、バランスを気にするべきだと思う。それよりも大事な課題として、失われていく日本の食文化がある。
- ・日本の食料自給率は40%しかないことを日本人はもっと考えないといけない。こういうことも食育のなかで啓発していき、小さな市からでも国に上げていき、食政策に反映させてほしい。
- ・日本の食文化の基本は箸の持ち方である。子どもに正しく持たせるためには親に指導する必要がある。

<子どもへの食育、家庭での食育について>

- ・乳幼児は初めて味を覚える時期で、この時の味覚やリズムが成長しても続いていく。乳幼児の母親の取り組みが将来の食育・健康づくりにつながるので、母親が勉強する機会を広げることが基本だと思う。
- ・最近では、生活習慣病の子どももいる一方で、肥満でも内臓に異常のない子どももいる。そういう場合は、本人に自覚症状がないので、食生活を改善するための意識付けが難しい。保護者に知識を伝えていくのが大切だと思う。
- ・メタボリックシンドローム対策も、大人の食生活は子供のときの食生活を引きずっているため、子どもの頃から正しい食生活を身につけることで防ぐことができる。その点でよい提案をしたい。
- ・乳幼児の食事では祖父母への教育も取り入れたい。祖父母が孫を甘やかして、カロリーの高いものや甘いものを食べさせていることもある。
- ・アンケート結果やワークショップの内容からも、何とかしたいがどうすればよいのか分からないと考えている人が多いということを実感した。家庭の中で本当に実践してもらえることを提案しなくてはならないと思った。

<給食について>

- ・学校給食の残食が多いことも課題としてとりあげるべきだと思う。その他、食品の安全性も重要な課題である。
- ・生駒市では中学生でも給食を食べている。これで3食のうち1食が食育をベースにしているカロリー計算された食事になるので恵まれていると思う。
- ・給食では、地場のものを取り入れているし、サバの味噌煮など普通の家庭ではしないものも出てくるので、大きな食育だと思う。
- ・給食がセンター方式になっていることで、食器を返す時間などの問題から食べる時間が短くなっている。20分程度しかなく、初めに食べられないものを返すことになっている。食べ終わるまで残されることは今はないが、給食は全員が全部食べているわけではない。
- ・サバの味噌煮など、味付けが濃い料理もある。
- ・配膳する食器が、一品一品盛り付けるものではなく、一皿に盛り付けるランチプレート方式のため、子どもたちは姿勢が悪い状態で食べている。
- ・昔とは変わっている部分もあるので、現在の給食の実態を知るべきだと思う。
- ・学校給食が占める割合は大きいと思う。残飯を少なくするために、食べられないものは返すこともあるが、アレルギー等のやむを得ない理由がある場合以外は、全部返す方針をとっている学級担任に改善を求めるべきだと思う。食べられない子が返した分を食べられる子が余分に食べることで摂取カロリーが高くなってしまうので問題である。給食の時間についても見当すべきである。
- ・給食では一年を通じて行事食等もとりいれていて、献立表にも載せている。それでもなかなか浸透していないのなら、新しいことだけでなく、今実施していることを、横の連携でつないでアピールしていく必要がある。

■その他の質疑応答

- ・食育基本法第18条1項に基づいて、生駒市食育推進会議設置要綱がでている。生駒市として、どのような役目・義務・責任があるのか。

⇒ 事務局の回答

- ・国の食育推進計画、食育基本計画と都道府県の食育基本計画からは大きく逸脱しない形で、かつ市としての特色を入れた食育推進基本計画をつくることになっている。奈良県の推進計画に基づいて、生駒市として重点的に取り組みたいことを審議して頂きたい。

- ・学校給食の、環境の問題、技能の問題、残飯の問題など、それぞれの担当部署が異なるように、食育を展開している庁内の課が縦割りになっているので、テーマを決めて横割りにするべきではないだろうか。

⇒ 事務局の回答

- ・庁内では関係課の課長で構成する担当課長会議を行っており、連携を深めていくこととしている。また、学校給食については、事務局に学校関係の先生に参加頂いており、給食センターの資料も取り入れている。なるべく縦割りにならないように意思統一を図つ

ていきたい。

- 学校給食のあり方については、センター方式から自校方式への転換という市長公約があるが、これは今後の生駒市食育推進に、大いに関係があることであり、今後とも情報開示等、進展状況をお知らせ願いたい。

以上